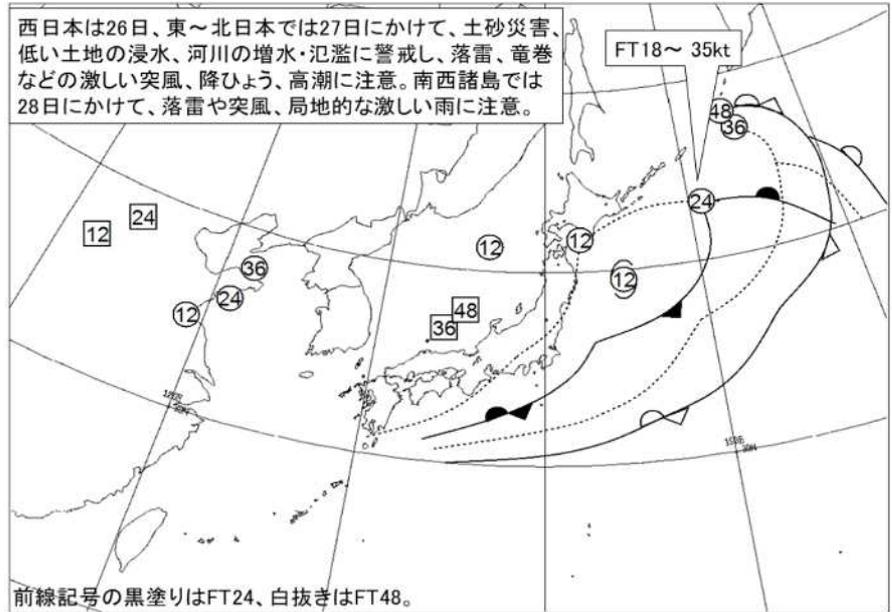


1. 実況上の着目点

- ① 熱帯低気圧が日本の東にあって北上。
- ② 日本海には 500hPa 5760m付近の -6°C 以下の寒気を伴う寒冷渦があって東進。対応する前線を伴った低気圧が日本海にあって東進。前線に向かう下層暖湿気や①の熱帯低気圧の影響で、西日本から北日本の所々で対流雲が発達し、雷を検知しており、非常に激しい雨を解析している。
- ③ 沖縄の南に 300hPa -30°C 以下の寒気を伴う上層寒冷低気圧(UCL)があって西進。沖縄の南では対流雲が発達している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の熱帯低気圧は、日本の東を北上し、次第に不明瞭となる見込み。
- ② 1項②の寒冷渦は、27日にかけてトラフとなって日本の東に進む。また、オホーツク海の 500hPa 5580m付近の寒冷渦が27日から28日にかけて千島近海へ進む。1項②の低気圧からのびる前線の閉塞点上に26日夜までに低気圧が発生し、次第にオホーツク海を南下する寒冷渦からのびるトラフと対応して発達し、27日夜には千島近海へ進んで動きが遅くなる。低気圧からのびる寒冷前線は、27日にかけて西～北日本を通過する。上空寒気と低気圧や前線に向かう下層暖湿気、及び2項①の熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、西日本～北日本では大気の非常に不安定な状態が続き、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。これまでの雨の影響で地盤の緩んでいる所では少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなることに留意。西日本では26日は土砂災害に厳重に警戒し、西～北日本では27日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水・氾濫に警戒、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項③のUCLは、27日にかけて沖縄の南から南シナ海に進む。上空寒気と太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で南西諸島では大気の状態が不安定となる。南西諸島では28日にかけて、落雷、突風、局地的な激しい雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、前線近傍や暖域内の降水の表現はモデル間で違いがあり、不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：関東甲信100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。